

丙種模擬試験 第1回(印刷用)

全25問・四肢択一／目安 1時間15分／合格基準:3科目とも60%以上(法令6問・燃焼消火3問・性質6問)

この PDF の中身:問題(このページから)／解答用紙(5ページ)／解答・解説(6ページから)

当サイトのオリジナル問題です(公式の過去問題ではありません)。

第1科目:危険物に関する法令【10問】

問1

消防法の目的として、正しいものはどれか。

- (1)環境の保全を図ること
- (2)産業の振興を図ること
- (3)火災の予防・警戒・鎮圧により国民の生命・身体・財産を保護すること
- (4)労働者の安全と健康を確保すること

問2

ガソリンの指定数量はどれか。

- (1)100 L
- (2)200 L
- (3)400 L
- (4)1,000 L

問3

製造所等を設置する場合に必要な手続きはどれか。

- (1)消防署長への通知
- (2)都道府県知事への届出
- (3)消防長への届出
- (4)市町村長等の許可

問4

丙種危険物取扱者の免状について、誤っているものはどれか。

- (1)第4類の一部の危険物を取り扱うことができる。
- (2)無資格者の立会いはできない。
- (3)保安監督者に選任されることができる。
- (4)他の乙種試験で科目免除は受けられない。

問5

危険物の取扱作業に従事する者が受講する保安講習の受講頻度はどれか。

- (1)3年に1回
- (2)5年に1回
- (3)1年に1回
- (4)10年に1回

問6

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合、車両に掲示するものはどれか。

- (1)「火気厳禁」の標識
- (2)「危」の標識
- (3)「関係者以外立入禁止」の標識
- (4)「取扱注意」の標識

問7

給油取扱所について、正しいものはどれか。

- (1)給油空地の面積は10㎡以下でよい。
- (2)ガソリンは地上タンクに貯蔵する。
- (3)建物の2階以上に設置できる。
- (4)ガソリンの地下専用タンクに容量制限はない。

問8

仮貯蔵・仮取扱いについて、正しいものはどれか。

- (1)消防長又は消防署長の承認を受けて10日以内の期間で行える。
- (2)市町村長等の許可を受けて30日以内の期間で行える。
- (3)届出のみで行える。
- (4)特に手続きは不要である。

問9

定期点検の記録の保存期間は、原則何年か。

- (1)1年
- (2)2年
- (3)3年
- (4)5年

問10

灯油200 Lとガソリン100 Lを同じ場所に貯蔵する場合の指定数量の倍数はどれか。

- (1)0.3
- (2)0.7
- (3)1.0
- (4)1.5

第2科目：燃焼及び消火に関する基礎知識【5問】

問11

燃焼の3要素に含まれないものはどれか。

- (1)可燃物
- (2)酸素供給体
- (3)水
- (4)点火源

問12

引火性液体の燃焼の種類として、正しいものはどれか。

- (1)蒸発燃焼
- (2)表面燃焼
- (3)分解燃焼
- (4)自己燃焼

問13

引火点の説明として、正しいものはどれか。

- (1)物質が自然に発火する温度
- (2)物質が沸騰する温度
- (3)物質が分解し始める温度
- (4)点火源を近づけたときに燃え出す最低温度

問14

油火災の消火方法として、最も適切なものはどれか。

- (1)棒状の水をかける。
- (2)泡消火剤で液面を覆う。
- (3)油を攪拌して冷却する。
- (4)空気を送り込む。

問15

静電気の蓄積を防ぐ方法として、正しいものはどれか。

- (1)液体の流速を速くする。
- (2)湿度を低く保つ。
- (3)容器やタンクを接地(アース)する。
- (4)化学繊維の衣類を着用する。

第3科目:危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法【10問】

問16

第4類危険物の蒸気について、正しいものはどれか。

- (1)空気より軽く、上方に拡散する。
- (2)空気より重く、低所にたまる。
- (3)空気と同じ重さである。
- (4)蒸気は発生しない。

問17

ガソリンの引火点として、正しいものはどれか。

- (1)約 0℃
- (2)約 20℃
- (3)約 100℃
- (4)約 -40℃

問18

灯油にガソリンが混入した場合の危険性について、正しいものはどれか。

- (1)引火点が異常に低下し、引火の危険性が高まる。
- (2)引火点が上昇し、安全性が増す。
- (3)性質に変化はない。
- (4)灯油が固体になる。

問19

軽油について、正しいものはどれか。

- (1)特殊引火物に分類される。
- (2)第1石油類に分類される。
- (3)第2石油類に分類される。
- (4)第3石油類に分類される。

問20

重油について、正しいものはどれか。

- (1) A重油が最も粘度が高い。
- (2) C重油に近づくほど粘度が高くなる。
- (3) すべての重油は常温で固体である。
- (4) 水に溶ける。

問21

動植物油類の自然発火について、正しいものはどれか。

- (1) ヨウ素価が低いほど自然発火しやすい。
- (2) 密閉容器に保存すれば自然発火の危険はない。
- (3) 水中に保存すれば安全である。
- (4) ヨウ素価が高いほど酸化しやすく、自然発火の危険が高い。

問22

ガソリンの外観について、正しいものはどれか。

- (1) 自動車用ガソリンはオレンジ色に着色されている。
- (2) 無色透明である。
- (3) 青色に着色されている。
- (4) 黒色の液体である。

問23

第4石油類の引火点として、正しいものはどれか。

- (1) 21℃未満
- (2) 21℃以上70℃未満
- (3) 200℃以上
- (4) 70℃以上200℃未満

問24

引火性液体の火災に最も適した消火剤はどれか。

- (1) 棒状の水
- (2) 泡消火剤
- (3) 食塩水
- (4) 燃料を追加する

問25

ガソリンの水溶性について、正しいものはどれか。

- (1) 水によく溶ける。
- (2) 少し溶ける。
- (3) 温水に溶ける。
- (4) 水に溶けない。

解答用紙 — 丙種模擬試験 第1回

実施日:	年	月	日	正解数:	/	問
------	---	---	---	------	---	---

各問の解答欄に○をつけてください。

問題	(1)	(2)	(3)	(4)
問1	(1)	(2)	(3)	(4)
問2	(1)	(2)	(3)	(4)
問3	(1)	(2)	(3)	(4)
問4	(1)	(2)	(3)	(4)
問5	(1)	(2)	(3)	(4)
問6	(1)	(2)	(3)	(4)
問7	(1)	(2)	(3)	(4)
問8	(1)	(2)	(3)	(4)
問9	(1)	(2)	(3)	(4)
問10	(1)	(2)	(3)	(4)
問11	(1)	(2)	(3)	(4)
問12	(1)	(2)	(3)	(4)
問13	(1)	(2)	(3)	(4)
問14	(1)	(2)	(3)	(4)
問15	(1)	(2)	(3)	(4)
問16	(1)	(2)	(3)	(4)
問17	(1)	(2)	(3)	(4)
問18	(1)	(2)	(3)	(4)
問19	(1)	(2)	(3)	(4)
問20	(1)	(2)	(3)	(4)
問21	(1)	(2)	(3)	(4)
問22	(1)	(2)	(3)	(4)
問23	(1)	(2)	(3)	(4)
問24	(1)	(2)	(3)	(4)
問25	(1)	(2)	(3)	(4)

採点する前に

このページは、[丙種模擬試験 第1回](#)の四肢択一オリジナル問題25問に対応する解答・解説です。公式の過去問題ではありません。法令10問、燃焼・消火5問、性質10問に分けて採点し、正解番号だけでなく他の選択肢を除外した根拠も確認してください。

科目・問題数は[消防試験研究センター](#)、四肢択一・1時間15分・科目別60%以上の合格基準は「[試験の方法](#)」で確認できます。法令問題は[消防法](#)、[危険物政令](#)、[危険物規則](#)も参照してください。

第1科目:危険物に関する法令

問1 正解:(3)

問題:消防法の目的として正しいものを選ぶ

消防法第1条は、火災の予防・警戒・鎮圧、国民の生命・身体・財産の保護などを目的に掲げています。この設問では(3)が該当しますが、条文には災害による被害の軽減や社会公共の福祉への寄与も含まれます。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問2 正解:(2)

問題:ガソリンの指定数量を選ぶ

ガソリンは第1石油類の非水溶性液体の代表例で、指定数量は200Lです。灯油・軽油は通常、第2石油類の非水溶性液体として1,000L、重油は第3石油類の非水溶性液体として2,000Lと整理します。実際の製品区分は組成・引火点・水溶性で確認してください。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問3 正解:(4)

問題:製造所等を設置する場合に必要な手続きを選ぶ

消防法第11条により、製造所等の設置または位置・構造・設備の変更には市町村長等の許可が必要です。品名・数量・指定数量の倍数を変更する場合は、原則として変更予定日の10日前までに届け出るため、変更内容と期限を組み合わせで区別します。

関連する解説:[設置許可・完成検査・仮使用・仮貯蔵](#)

問4 正解:(3)

問題:丙種危険物取扱者の免状について誤っているものを選ぶ

丙種免状では危険物保安監督者に選任されません。危険物保安監督者は、甲種または対象類を取り扱える乙種危険物取扱者で、6か月以上の危険物取扱いの実務経験がある者から選任します。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問5 正解:(1)

問題:危険物の取扱作業に従事する者が受講する保安講習の受講頻度を選ぶ

危険物の取扱作業に継続して従事する危険物取扱者は、前回の講習を受けた日以後の最初の4月1日から3年以内に次の講習を受けます。新たに従事する場合は原則1年以内ですが、従事開始日前2年以内に免状交付または講習受講がある場合は別の起算になるため、単純に受講日から丸3年とは限りません。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問6 正解:(2)

問題:指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合、車両に掲示するものを選ぶ

指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、0.3m平方の黒地に黄色の反射材等で「危」と表示した標識を、車両の前後の見やすい箇所に掲げます。したがって(2)が正解です。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問7 正解:(4)

問題:給油取扱所について正しいものを選ぶ

危険物政令第17条では、固定給油設備に接続する地下の専用タンクそのものに一律の容量上限を置く文言はありません。一方、廃油タンク等は1万L以下、地上の簡易タンクは600L以下など別の制限があります。「地下だから安全」という理由ではなく、タンクの用途と構造ごとの基準で区別します。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

問8 正解:(1)

問題:仮貯蔵・仮取扱いについて正しいものを選ぶ

消防法第10条第1項ただし書により、指定数量以上の危険物は、所轄消防長または消防署長の承認を受けた場合に10日以内の期間、仮に貯蔵・取り扱えます。製造所等の設置・変更で必要な「許可」と区別してください。

関連する解説:[設置許可・完成検査・仮使用・仮貯蔵](#)

問9 正解:(3)

問題:定期点検の記録の保存期間(原則何年か)を選ぶ

危険物規則第62条の8では、個別の長期保存区分に該当しない定期点検記録は3年間保存します。屋外貯蔵タンクの内部点検記録や移動貯蔵タンクの漏れの点検記録などは別の保存期間があるため、すべての点検記録が3年という意味ではありません。

関連する解説:[予防規程・定期点検・自衛消防組織](#)

問10 正解:(2)

問題:灯油200 Lとガソリン100 Lを同じ場所に貯蔵する場合の指定数量の倍数を選ぶ

灯油 $200\text{L} \div 1,000\text{L} = 0.2$ 、ガソリン $100\text{L} \div 200\text{L} = 0.5$ で、合計は**0.7**です。指定数量の倍数は1未満ですが、規制がなくなるわけではなく、消防法第9条の4に基づく市町村条例の基準が関係します。

関連する解説:[丙種の法令まとめ](#)

第2科目:燃焼及び消火に関する基礎知識

問11 正解:(3)

問題:燃焼の3要素に含まれないものを選ぶ

燃焼の3要素は**可燃物・酸素供給体・点火源**です。水は燃焼の3要素に含まれません(消火に使うもの)。

関連する解説:[丙種の燃焼・消火の基礎](#)

問12 正解:(1)

問題:引火性液体の燃焼の種類として正しいものを選ぶ

引火性液体は**蒸発燃焼**です。液体そのものが燃えるのではなく、蒸発した蒸気が空気と混合して燃えます。

関連する解説:[丙種の燃焼・消火の基礎](#)

問13 正解:(4)

問題:引火点の説明として正しいものを選ぶ

引火点は、規定の試験条件で点火源を近づけたとき、引火するのに十分な蒸気を発生する最低の液温です。点火源なしで発火する温度を示す発火点とは別の物性値です。

関連する解説:[丙種の燃焼・消火の基礎](#)

問14 正解:(2)

問題:油火災の消火方法として最も適切なものを選ぶ

選択肢の中では、対象液体に適合する**泡消火剤で液面を覆う(2)**が最も適切です。棒状注水は燃焼液を拡散させるおそれがありますが、泡や水系消火剤の適否は物質の水溶性、火災規模、設備の適応で異なります。

関連する解説:[丙種の燃焼・消火の基礎](#)

問15 正解:(3)

問題:静電気の蓄積を防ぐ方法として正しいものを選ぶ

選択肢の中では、容器やタンクを**接地(アース)**する(3)が適切です。実際の対策は、接地・ボンディング、流速管理、導電性、湿度、作業手順を設備と物質に応じて組み合わせます。

関連する解説:[丙種の燃焼・消火の基礎](#)

第3科目:危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

性質・消火の解説について

ここでは試験上の代表的な性質を解説しています。実物の識別、混合、漏えい、火災対応へそのまま転用せず、製品SDS、容器表示、施設の緊急時手順、消防機関の指示を優先してください。

問16 正解:(2)

問題:第4類危険物の蒸気について正しいものを選ぶ

丙種で扱う代表的な第4類危険物の可燃性蒸気には、空気より重く低所やくぼみに滞留しやすいものが多くあります。実務では物質名、温度、蒸気密度、換気条件を製品SDSと設備基準で確認します。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問17 正解:(4)

問題:ガソリンの引火点として正しいものを選ぶ

ガソリンの引火点は代表値で約-40℃とされ、常温より低いため、常温でも引火可能な蒸気を生じます。ガソリンは混合物で物性値に幅があるため、実物は製品SDSを確認してください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問18 正解:(1)

問題:灯油にガソリンが混入した場合の危険性について正しいものを選ぶ

灯油へガソリンが混入すると、混合物の引火点が低下し、より低い温度で引火可能な蒸気を生じるおそれがあります。混合量だけで安全性を判断せず、異種燃料を混ぜないこと、誤給油・混入時は使用せず供給者や関係機関の案内に従うことが重要です。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問19 正解:(3)

問題:軽油について正しいものを選ぶ

軽油は第2石油類の非水溶性液体の代表例なので(3)が正解です。第2石油類は1気圧で引火点21℃以上70℃未満の区分で、製品の引火点や外観には規格・組成による幅があります。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問20 正解:(2)

問題:重油について正しいものを選ぶ

重油はA重油、B重油、C重油に区分され、一般にAからCへ進むほど粘度が高くなる傾向があるため(2)が正解です。流動性や加温の要否は製品の種類・温度・設備条件で異なります。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問21 正解:(4)

問題:動植物油類の自然発火について正しいものを選ぶ

ヨウ素価は油脂の不飽和度を見る指標の一つで、値が高い油は酸化しやすい傾向があります。ただし自然発火は、油が布や紙へ染み込み、それらが重なって放熱しにくい状態で酸化熱が蓄積するなどの条件にも左右されます。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問22 正解:(1)

問題:ガソリンの外観について正しいものを選ぶ

日本の自動車用ガソリンは識別のためオレンジ色に着色されているので(1)が正解です。ただし外観は製品・汚染・照明条件でも変わるため、未知の液体を色やにおいで識別せず、容器表示や製品情報を確認してください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問23 正解:(3)

問題:第4石油類の引火点として正しいものを選ぶ

消防法別表第一で、第4石油類は1気圧で引火点が200℃以上250℃未満の引火性液体です。常温での引火リスクがガソリンより低くても、加熱、霧化、取扱量、点火源などの条件を含めて判断します。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問24 正解:(2)

問題:引火性液体の火災に最も適した消火剤を選ぶ

選択肢の中では、対象液体に適合する泡消火剤(2)が最も適切です。実際の消火剤は物質の水溶性、火災規模、設備の適応で異なり、二酸化炭素や粉末も条件に応じて用いられます。実火災では避難・119番通報を優先してください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

問25 正解:(4)

問題:ガソリンの水溶性について正しいものを選ぶ

ガソリンは第1石油類の非水溶性液体の代表例で、水より軽い混合物として示されるため(4)が正解です。漏えい時に水で希釈しようとせず、近づかずに火気を避け、製品SDSと施設の緊急時手順に従ってください。

関連する解説:[丙種の危険物の性質](#)

採点後の見直し

1. 法令は10問中6問、燃焼・消火は5問中3問、性質は10問中6問を科目別に確認する
2. 法令の誤答は[丙種法令](#)と[法令ミニテスト](#)、燃焼・消火は[基礎解説](#)と[ミニテスト](#)へ戻る
3. 性質の誤答は[代表物質の整理](#)と[性質ミニテスト](#)で解き直す
4. [第1回の問題へ戻る](#)か、[第2回](#)で別の25問に進む

答え合わせが終わったら

- 次の回:[丙種模擬試験 第2回\(全25問\)](#)
- 同じ分野のミニテスト:[丙種・法令](#)／[丙種・燃焼と消火](#)／[丙種・性質](#)(各10問)
- ロードマップ:[丙種の勉強法とロードマップ](#)(学習の順番に戻る)

危険物取扱者への道 kikenbutsu-roadmap.com/255/ (2026-10-03 作成) 内容には注意を払っていますが、誤りが含まれる可能性があります。最終的な確認は法令・公式の案内で行ってください。